

たんぽぽ



看護師 医療系進学を
目指す方のための通信

2015年10月号

〒174-8502 東京都板橋区小豆沢1-6-8 小豆沢病院 ☎03-3968-7993(直通)

行事が多くなる季節ですね～みなさん楽しんでますか？受験生は推薦試験が始まる頃です。合格目指して進んで下さい♪小豆沢病院では患者さんと接しながら行うボランティアを実施していますので参加お待ちしています！



救急の日 に表彰



9月9日は救急の日、救急業務協力者の表彰のため志村消防署の副所長さんから感謝状が手渡されました。外来Nsの優しさあふれる対応や救急車の受け入れを断らず行ってきた結果が表彰につながりました。これからも救急対応はじめ患者さんが安心して受診できるように頑張ります！

全てのお申込 お問合せは小豆沢病院学生室(村上・峠)まで

直通TEL: 03-3968-7993 E-mail: kangakusei@kenbun.or.jp

携帯TEL: 080-1236-0698

小豆沢病院学生室は看護に興味をもたれた方々のお手伝いをする事で、将来一人でも多くの看護師が誕生する事を願っています。また、その援助を主な仕事としています。

皆さんの個人情報

①企画を円滑に行なうための事前確認

②看護学校情報や小豆沢病院における企画紹介を掲載した高校生通信の発送

③通信作成にあたり看護学校進学確認をお聞かせ願う

この3点を目的に活用しています。

お申し出があった時には直ちに、名簿からの削除を行ないます。



高校生ボランティア募集



小豆沢病院では患者さんの

足浴や散歩等のボランティアを募集しています！

患者さんとコミュニケーションを取りながら色々な経験をしてみませんか？

将来看護師を目指している方はぜひ来てください。きっと自信につながりますよ。

動きやすい服装、筆記用具、エプロン(ない人はよいです)持参で参加してください。

10/31(土) 14時～16時

要申込み(5日前までに連絡を)

メールの場合は、氏名(ふりがな)・学校名・学年・
電話番号を必ず入力してください

電話: 03-3968-7993

メール: kangakusei@kenbun.or.jp



笑顔で患者さんに話しかけると、明るく答えてくれた事が嬉しかったです。初めてのボランティアで不安もありましたが、サポートしてもらいながらしっかりできました。看護への興味が深まりました。

相手の立場を体験しないと分からない事が沢山ありました。ありがとうございました。看護師を目指す意志が強まり良い体験ができました。



2015 年秋 模擬面接

小豆沢病院ではこの時期、模擬面接をおこなっています。看護大学、看護短大、専門学校など前年の傾向にあわせた面接にしています。学校の面接と違った緊張感を体験し、本番に臨んでください。申し込みお待ちしております。

参加対象

高校三年生又は社会人で
看護系大学、短大、専門学校受験者

内容

入室→面接→退室…面接終了後、
アドバイスをします

◎小豆沢病院外来受付に17時集合
(間に合わない場合はお知らせください)



<日程>

⑤10/19(月) ⑥10/20(火) ⑦11/4(水)
⑧11/6(金) ⑨11/10(火) ⑩11/19(木)

<申込み方法>

小豆沢病院学生室に電話 03-3968-7993 かメールで申込み。
メールの場合は下記のことを記入してください。申込書を郵送いたします。
①氏名 ②ふりがな ③性別 ④高校名 ⑤学年 ⑥郵便番号
⑦住所 ⑧志望校 ⑨自宅TEL ⑩携帯TEL ⑪希望日

注意：申込み書が届き次第、面接日を連絡しますので、希望日の10日前位を目安にご連絡ください。
受け入れ人数に限りがあり、お断りさせていただく場合があります。

TEL/03-3968-7993 E-mail/kangakusei@kenbun.or.jp

小豆沢病院学生室 峠・村上



「在宅で」の患者の思いを全力で実現

小豆沢病院の地域包括ケア病床は2014年5月24床からスタートし、8月からは45床の地域包括ケア病床になりました。入院される患者さんは急性期病院での治療後にリハビリテーションの継続や在宅調整を目的に転院される方が大半を占めていますが、看取り目的で入院される方もいます。

今回、肺がんの末期と診断されたA氏との関わりについて振り返りたいと思います。A氏は40代男性。独居で親とは疎遠状態。仕事はしておらず生活保護を受給。大学病院で放射線治療などをしましたか、全身状態が悪化し積極的な治療はできないと判断、また独居で通院が困難などの社会的な事情もあり緩和ケア病棟入院までの待機目的も兼ねて当院に転院となりました。

転院当初は吐き気が強く会話をするのも辛そうな状態で、終日傾眠状態でした。しかし、麻薬などの内服調整により症状は改善し歩行できる状態になり、A氏から「大学病院にいる時に死にかけた。あの時は死ぬかと思ったけど今は元気になって感謝している。あとどれくらい生きられるかわからないけど家で生活したい」という言葉が聞かれるようになりました。A氏の思いを受けて早々に自宅に戻れるよう在宅調整を開始しました。担当看護師が中心となり、訪問診療・訪問看護の依頼、介護保険の申請、事業所・ケアマネの依頼、合同カンファレンスの開催など在宅療養ができるよう調整をすすめ自宅に退院することができました。

私たちの看護は患者さんの思いからスタートします。その思いが叶えられるよう担当看護師はすぐに行動を開始したこと、また急な依頼でありながら在宅部門が快く引き受けて頂いた事がとても心強く感じた事例でした。

最後に…A氏は退院後、大学病院に受診をして再度抗癌剤治療ができると言われて再入院をされましたが、その後すぐに急変されお亡くなりになりました。当院を退院して2週間後の出来事です。A氏のご冥福をお祈りいたします。

(地域包括ケア病棟 看護師長…東京民医連新聞9月5日発行「輝け看護!」より)

看護学校へ進学したら 奨学金制度を活用しよう



奨学金説明会

10月31日(土)
10時～12時

看護学校では学業が忙しく、アルバイトをする余裕がありません。多くの看護学生が奨学金を受けて 学んでい

ます。当院では、奨学生に対して金銭面の援助のみでなく、学習にも役立つ企画(奨学生活動)など様々な援助も行っています。受験前の方でも奨学金制度のご説明をいたしますので、お気軽に看護学生室まで♪